

東海新報

平成29年(2017年)

1月21日 土曜日



本年度10回目(震災後第74回)の陸前高田市保健医療福祉未来図会議。高田町の同市役所で開かれ

「はまかだ」の推進目指す

保健医療福祉未来図会議 スポットガイドの議論通し

陸前高田市

た。今回は、各分野で市民生活にかかわる団体関係者ら約30人が出席。昨年秋季から作成に取り組んでいるマップ「はまかだスポットガイド(仮称)」の実現に向けた議論を通し、戸羽太市長が提唱する「ノーマライゼーション」という言葉の「はまかだ運動」の推進を目指した。

未来図会議では、住民一人一人の健康で文化的な生活と戸羽市長の掲げるまちづくりの実現を目標に、震災から復興する地域にとってより良い体制づくりに寄

グループごとに「はまかだスポットガイド」の活用方法について議論。陸前高田市役所(電子新聞に別写真あり)

与し続けられるよう、保健医療福祉分野の視点から中・長期的な展望を議論している。

本年度の年間テーマは、「私から始める他人(ひと)ごと意識の解消」。ノーマライゼーションという言葉の「はまかだ」の作成に向けてというテーマの下、地域包括ケアアドバイザーの岩室伸也さんの講話、市や関係団体による報告、グループワークなどが行われた。

はじめに岩室さんが、地域づくり、まちづくり、コミュニティづくりについて、「誰かに何かをさせることではなく、気がつくこと

人と人となりがつながら続けていくことだ」と提言。「絆」という言葉の「はまかだ」につなげる。仕掛けは「はまかだ」としての「はまかだ」(手かせ、足かせ、迷惑、束縛)という二つの意味があり、「ほだし」も大切であると訴えた。続いて、一般社団法人SAVE TACKATAと、市民生部保健課の生活支援コーディネーター・金野康子さん、市建設部都市計画課の計画係長・永山悟さんが、それぞれはまかだやまちづくりに関する報告を行った。

このうち同法人の報告では、代表理事の佐々木信秋さんと理事の吉田謙介さんが発表。はまかだ運動と出会い、心が健康でなければまちづくりに参加できないことや、健康医療の分野だからこそまちづくりを意識することなどに気付かされたこと。また、東京などで物産展に参加している「陸前高田応援隊」の活動についても触れ、物産展は陸前高田に縁のある人々がはまる、場所であることを紹介した。

このあと、グループごと